

厚生労働科学研究費補助金【エイズ対策政策研究事業】
HIV 検査体制の改善と効果的な受検勧奨のための研究
HIV 診断・検査法に係る研究（加藤眞吾）総合報告書

HIV 郵送検査の実態調査と検査精度調査（2024）

研究協力者 須藤 弘二（株式会社ハナ・メディテック）
研究分担者 佐野 貴子（神奈川県衛生研究所）
研究協力者 近藤 真規子（株式会社ハナ・メディテック）
研究協力者 今井 光信（田園調布学園大学）
研究代表者 今村 顕史（都立駒込病院）
研究分担者 加藤 眞吾（株式会社ハナ・メディテック）

研究要旨

現在インターネット上では、検査希望者が検査機関に行くことなしに HIV 検査を受検することができ“HIV 郵送検査”を取り扱う Web サイトが存在し、その検査割合は増加しつつある。この HIV 郵送検査について現状を把握するため、2022 年から 2024 年の 3 年間、郵送検査会社に対してアンケート調査を行い、検査数、陽性数、使用検体、検査法、検査結果の通知法等に関する実態調査を行った。また検査精度の調査のため、2022 年から 2024 年の 3 年間、パネル血漿を用いて作成した再構成全血検体を用いて検査精度調査を行った。

2022 年にアンケートを依頼した郵送検査会社 15 社の内 10 社、2023 年では 19 社の内 13 社、2024 年では 21 社の内 11 社から回答が得られた。郵送検査会社全体の年間検査数は、2022 年が 149,637 件、2023 年が 153,037 件、2024 年が 132,324 件であり、2022 年と 2024 年を比較すると 12%減少していたが、保健所等検査の推定数である 10 万件を上回っていた。また 2022 年の郵送検査数の内、36%が団体受付による検査と推定されたが、2024 年では 41%に増加していた。郵送検査会社全体の検査陽性数は 2022 年が 152 例、2023 年が 124 例、2024 年が 103 例であり、2022 年と 2024 年を比較すると 32%減少していた。また判定保留数は 2022 年が 47 例、2023 年が 29 例、2024 年が 30 例であり、陽性数と判定保留数の合計について 2022 年と 2024 年を比較しても 33%減少していた。HIV 検査の受検費用は平均 4057-4102 円、検査日数は平均 2-3 日であった。検査検体は全血を濾紙や採血管で保存したものをを用いており、CLEIA 法、イムノクロマト法、PA 法、CLIA 法等、PMDA で認可された臨床検査キットで検査を行っていた。検査結果は郵送での通知に加えて専用 web サイトや E-mail での通知が選択できる会社が多く、検査結果が陽性だった場合、ほぼすべての検査会社で病院での検査をすすめていた。

2022 年は 7 社、2023 年は 8 社、2024 年は 9 社の郵送検査会社に対し、陽性 3 例、陰性 2 例のパネル検体を用いて検査精度調査を行った結果、調査を受けたすべての会社で陽性、陰性検体とも結果がすべて一致していた。

今後も定期的な検査精度調査を行い、団体検査、受検者に対する検査相談、フォローアップ等の改善のため、「HIV 郵送検査のあり方について」等を活用し、各郵送検査会社の協力を得て、郵送検査をより安心して受けられ、信頼できる検査とする必要がある。

A. 研究目的

現在 HIV 検査は、土曜・日曜・夜間検査、即日検査や NAT 検査等の検査希望者のニーズに合わせた検査が、保健所・病院・民間クリニック等の検査・医療機関で行われている。それらに加えて、インターネット上では、検査希望者が検査機関に行くことなしに HIV 検査を受検することができる“HIV 郵送検査”を取り扱う Web サイトが存在し、その検査割合は増加しつつある。この HIV 郵送検査について現状を把握するため、2022 年から 2024 年の 3 回にわたり、郵送検査会社に対してアンケート調査を行うことにより、検査数、陽性数、使用検体、検査法、検査結果の通知法等に関する実態調査を行った。また 2022 年から 2024 年にかけて、検査精度の調査のため、調査を了承した郵送検査会社に対し、パネル血漿を用いて作成した再構成全血検体を用いて実際に検査を依頼することによって検査精度調査を行った。

B. 研究方法

1. アンケート調査

2022 年、2023 年、2024 年のそれぞれ 1 月に検索サイト「Google」を用いて、「エイズ+郵送」、「HIV+郵送」、「郵送検査」、「郵送検診」、「郵送健診」で検索を行い、HIV 郵送検査を取り扱う Web サイトを上位 100 位まで検索した。検索した Web サイトで販売されているキット、または Web サイト自体を運営している会社を調べた結果、自社で検査結果の報告を取り扱う HIV 郵送検査会社が 2021 年には 15 社、2023 年には 19 社、2024 年には 22 社あることがわかった。これらの郵送検査会社に対し、2022 年のアンケートは 2023 年 1 月 25 日から 2 月 14 日、2023 年のアンケートは 2024 年 1 月 30 日から 2 月 19 日、2024 年のアンケートは 2025 年 2 月 4 日から 2 月 19 日にかけて、手紙、FAX、メールにてアンケート調査の依頼を行った（資料 1-3）。

アンケート調査は以下の 17 項目について行った。

- ① 年間スクリーニング検査数、検査陽性数、判定保留数（団体での定期健診検査受付の有無とその割合、返却方法、確認検査の実施、医療機関への紹介と受診確認件数）
- ② 梅毒スクリーニング検査数と検査陽性数（団体検査の割合）
- ③ 検査精度調査への参加の有無
- ④ (2022 年) 新型コロナウイルス郵送検査の有無と検査数
(2023 年) 郵送検査検体を用いた確認検査の研究の参加検討
(2024 年) 郵送検査陽性受検者を診断・診療へ繋げるためのオンライン会議への参加検討
- ⑤ HIV 郵送検査に関する今後の課題と展望
- ⑥ HIV 郵送検査の開始年月
- ⑦ 検査申込方法
- ⑧ 検査費用
- ⑨ 検査検体と保存方法、検体が血液の場合の採血器具
- ⑩ 受検者から会社への検体輸送方法
- ⑪ スクリーニング検査の方法と使用キット
- ⑫ スクリーニング検査の実施施設
- ⑬ 検査結果の通知方法と通知までの日数
- ⑭ スクリーニング検査陽性時の対応
- ⑮ 2021～2023 年以前の年間検査数と陽性数
- ⑯ 他に取り扱いしている STD 検査の種類
- ⑰ 郵送検査を行うための届出、申請等

2. 検査精度調査

前年のアンケート調査で参加または返答無しであった会社、あるいは参加希望の連絡があった会社呼びかけ、参加の確認が取れた会社を対象とした。それぞれ陽性 3 検体、陰性 2 検体、合計 5 検体について検査を依頼して検査精度調査を行った。陽性検体は、パネル血漿 55%と健常人血球成分 45%を混合することにより再

構成した血液で作成し、陰性検体は健常人血液を用いた。パネル血漿は SeroDetect HIV-Ab Range Validation Panel KZMC024 (ZeptoMetrix 社) の#7 から#9 の 3 種類を用いた。検体は通常行われている郵送検査と同様に、各施設で用いている方法で保存して郵送し、測定を行った。

C. 研究結果

1. アンケート調査

2022 年にアンケートを依頼した郵送検査会社 15 社の内 10 社、2023 年では 19 社の内 13 社、2024 年では 22 社の内 11 社から回答が得られた。

① 年間スクリーニング検査数と検査陽性数(図 1、2)

HIV 郵送検査全体のスクリーニング検査数は 2022 年が 149,637 件、2023 年が 153,037 件、2024 年が 132,324 件であった。団体検査の受け付けがあったのは、2022 年が 10 社中 5 社、2020 年が 13 社中 5 社、2021 年が 11 社中 4 社であった。

郵送検査の内、団体受付の推定検査率は 2022 年が 36%、2023 年が 32%、2024 年が 41%であり、推定団体検査数は 53,011 件、48,333 件、54,747 件であった。返送方法(複数回答)として、2022 年は依頼者に受検者ごとの封書をまとめて返送が 3 社、受検者と依頼者の両方に返送が 2 社、受検者個人にのみ返送が 2 社、依頼者にまとめて返送が 1 社であった。2023 年は依頼者に受検者ごとの封書をまとめて返送が 3 社、受検者と依頼者の両方に返送が 4 社、受検者個人にのみ返送が 3 社、依頼者にまとめて返送が 1 社であった。2024 年は依頼者に受検者ごとの封書をまとめて返送が 3 社、受検者と依頼者の両方に返送が 3 社、受検者個人にのみ返送が 1 社であった。

郵送検査会社全体の検査陽性数は 2022 年が 152 例、2023 年が 124 例、2024 年が 103 例で

あった。判定保留数は 2022 年が 47 例、2023 年が 29 例、2024 年が 30 例であった。確認検査の陽性数は 2022 年が 24 例、2023 年が 18 例、2024 年が 13 例であった。電話やメールによる相談で、受検者を医療機関へ紹介した件数は、2022 年が 44 例、2023 年が 41 例、2024 年が 17 例であった。医療機関での受診が確認できた件数は、2022 年が 30 例、2023 年が 20 例、2024 年が 15 例であった。

② 梅毒スクリーニング検査数と検査陽性数(団体検査の割合)

2022 年から 2024 年の梅毒郵送検査のスクリーニング検査数は、136,419 件、159,427 件、135,285 件であった。陽性数は 2,327 例、2,266 例、1,734 例であった。団体検査の受検者率は 34%、35%、42%であり、推定される団体検査の受検者数は 46,151 件、56,455 件、56,650 件であった。

③ 検査精度調査への参加の有無

2022 年は 10 社中検査精度調査へ参加希望する会社が 7 社、希望しない会社が 3 社であった。2023 年は 13 社中参加希望が 9 社、希望無しが 4 社であった。2024 年は 11 社中参加希望が 9 社、希望無しが 2 社であった。

④ (2022 年) 新型コロナウイルス郵送検査の有無と検査数

新型コロナウイルス検査を行っている会社は 10 社中 3 社、行っていない会社は 7 社であった。新型コロナウイルスの検査数は 172,890 件であった。

(2023 年) 郵送検査検体を用いた確認検査の研究の参加検討

郵送検査検体を用いた確認検査の研究の参加を検討する会社は 13 社中 5 社、希望しない会社は 7 社、無回答が 1 社であった。

(2024 年) 郵送検査陽性受検者を診断・診療へ繋げるためのオンライン会議への参加検討

オンライン会議への参加を検討する会社は 11

社中 6 社、希望しない会社は 5 社であった。

⑤ HIV 郵送検査に関する今後の課題と展望

ガイドラインの発行を希望する会社が 2022 年と 2023 年に 1 社あった。

⑥ HIV 郵送検査の開始年月

2022 年から 2024 年までにアンケートに参加した郵送検査会社の郵送検査を開始した時期は、2000 年 5 月、2000 年 8 月、2002 年、2003 年 4 月、2003 年 10 月、2005 年 4 月、2006 年 4 月、2006 年 12 月、2007 年 3 月、2013 年 8 月、2015 年 12 月、2016 年 6 月、2020 年 11 月、2023 年 3 月、2023 年 11 月、2024 年 5 月であった。

⑦ 検査申込方法（複数回答）(図 3)

2022 年のアンケートに回答があった 9 社中インターネットでの申込は 9 社、電話での申込は 9 社、FAX での申込は 5 社、店頭、診療所での販売は 3 社、郵便での申込は 1 社、定期検査は 2 社で行われていた。2023 年に回答があった 12 社中インターネットでの申込は 12 社、電話での申込は 8 社、FAX での申込は 5 社、店頭、診療所での販売は 3 社、郵便での申込は 2 社、定期検査は 2 社で行われていた。2024 年の 11 社中インターネットでの申込は 11 社、電話での申込は 8 社、FAX での申込は 5 社、店頭、診療所での販売は 3 社、郵便での申込は 1 社、定期検査は 2 社で行われていた。

⑧ 検査費用 (図 3)

検査費用は 2500～6000 円(税抜)であり、2022 年の平均検査費用は 4,083 円 (回答 9 社)、2023 年は 4,057 円 (回答 11 社)、2024 年は 4,102 円であった (回答 10 社)。

⑨ 検査検体と保存方法、検体が血液の場合の採血器具(図 3)

2022 年から 2024 年を通して郵送検査で用いる検体はすべて血液であり、採血はランセットによる指先穿刺であった。検体の保存方法として、2022 年は 10 社中ろ紙での保存が 6 社、専用容器での保存が 4 社であった。専用容器で保

存している 4 社のうち、1 社は遠心分離、1 社はフィルターによる血球成分の除去を行っていた。2023 年は 13 社中ろ紙が 8 社、専用容器が 4 社、両方が 1 社であった。専用容器で保存している 5 社のうち、2 社は抗凝固剤を用いており、1 社はフィルターによる血球成分の除去を行っていた。2024 年は 11 社中ろ紙が 7 社、専用容器が 4 社であった。専用容器で保存している 4 社のうち、1 社は抗凝固剤、1 社は血清分離剤を用いており、1 社はフィルターによる血球成分の除去を行っていた。

⑩ 受検者から会社への検体輸送方法(図 3)

受検者から会社への検体輸送は、すべての郵送検査会社で郵便を用いていた。検体の郵送温度は、2022 年は 10 社中室温が 9 社で冷蔵が 1 社、2023 年は 13 社中室温が 12 社で冷蔵が 1 社、2024 年は 11 社すべて室温であった。

⑪ スクリーニング検査の方法と使用キット(図 3)

2022 年のアンケートによる郵送検査会社で使用されているスクリーニング検査法は、回答があった 9 社中 CLEIA 法が 5 社、PA 法が 2 社、イムノクロマト法が 1 社、CLIA 法が 1 社であった。2023 年は回答があった 12 社中 CLEIA 法が 8 社、PA 法が 2 社、イムノクロマト法が 1 社、CLIA 法が 1 社であり、2024 年は回答があった 10 社中 CLEIA 法が 8 社、イムノクロマト法が 1 社、CLIA 法が 1 社であった。

⑫ スクリーニング検査の実施施設

2022 年のアンケートによるスクリーニング検査の実施施設は、10 社中 7 社が自社のラボで行い、3 社が他の検査機関に検査を依頼する外注であった。2023 年は 13 社中 8 社が自社ラボ、5 社は外注であった。2024 年では 11 社中 8 社が自社ラボ、3 社は外注であった。

⑬ 検査結果の通知方法と通知までの日数(図 3)

2022 年のアンケートによる検査結果の通知方法は、10 社中郵便が 9 社 (希望者への通知を含む)、専用 web サイト (ID、パスワードあり)

が6社、e-mailが4社であった。2023年は13社中郵便が10社、専用webサイトが7社、e-mailが5社、携帯ショートメールが1社であった。2024年は11社中郵便が10社、専用webサイトが6社、e-mailが4社であった。2022年の結果通知までの日数は、検体受領後1～5日で平均3日（回答10社）、2023年は検体受領後1～4日で平均2日（回答11社）、2024年は検体受領後1～4日で平均2日であった（回答10社）。

⑭ スクリーニング検査陽性時の対応（複数回答）

2022年のアンケートによる10社のスクリーニング検査陽性時の対応の内訳として、病院で確認検査を受けるように勧めているのが8社、提携している医療機関に行くように勧めているのが6社、HIVに関する相談窓口を紹介しているのが3社、自社で設けた専用の相談連絡先を知らせているのが2社、保健所で確認検査を受けるように勧めているのが2社、追加検査・確認検査を実施し受検者への結果通知に反映させているのが1社、確認検査の必要性を伝えエイズ予防財団のカounselingを受けるよう勧めているのが1社、自社診療所へ来院を促しているのが1社であった。

2023年は13社中、病院で確認検査を受けるように勧めているのが11社、提携している医療機関に行くように勧めているのが5社、自社で設けた専用の相談連絡先を知らせているのが3社、保健所で確認検査を受けるように勧めているのが2社、HIVに関する相談窓口を紹介しているのが2社、スクリーニング検査の結果のみ知らせ、対応は個人の判断に任せているのが2社、追加検査・確認検査を実施し受検者への結果通知に反映させているのが1社、自社診療所へ来院を促しているのが1社であった。

2024年は11社中、病院で確認検査を受けるように勧めているのが9社、提携している医療機関に行くように勧めているのが4社、自社で設けた

専用の相談連絡先を知らせているのが3社、保健所で確認検査を受けるように勧めているのが2社、HIVに関する相談窓口を紹介しているのが2社、スクリーニング検査の結果のみ知らせ、対応は個人の判断に任せているのが2社、追加検査・確認検査を実施し受検者への結果通知に反映させているのが1社、自社診療所へ来院を促しているのが1社であった。

⑮ 2021～2023年以前の年間検査数と陽性数（図1）

HIV郵送検査全体の検査数と陽性数を図1に示した。検査数は2001年から2019年まで2012年を除き毎年増加しており、2020年と2021年は減少していた。陽性数は2001年から2006年まで増加し、2013年までは200件前後でほぼ横ばいであったが、2014年から100件前後で推移していた。

⑯ 他に取り扱っているSTD検査の種類（複数回答）

2022年のアンケートによる10社の他に取り扱っているSTD郵送検査の種類は、HBV、HCV、クラミジア、淋病が9社、梅毒が8社、ヒトパピローマウイルスとトリコモナスが4社、ヘルペスウイルスとカンジダとマイコプラズマとウレアプラズマが2社、成人T細胞白血病と細菌性膣炎が1社であった。

2023年は13社中、HBVと梅毒が11社、HCVが10社、クラミジア、淋病が9社、ヒトパピローマウイルスとトリコモナスが4社、カンジダとマイコプラズマが3社、ウレアプラズマが2社、ヘルペスウイルスと成人T細胞白血病と細菌性膣炎が1社であった。

2024年は11社中、クラミジア、淋病が10社、HBVと梅毒が9社、HCVが8社、トリコモナスが4社、ヒトパピローマウイルスとカンジダが3社、マイコプラズマが2社、ウレアプラズマとヘルペスウイルスと成人T細胞白血病と細菌性膣炎が1社であった。

⑰ 郵送検査を行うための届出、申請等

検査に関して、2022年には10社中9社、2023年には13社中8社、2024年には11社中8社が登録衛生検査所申請を行っていた。キット製造に関して、2022年から2024年まで1社が組み合わせ医療機器に関わる製造販売の申請を行っており、1社が医療機器申請を行っていた。販売に関して、2022年から2023年までは3社が、2024年からは2社が高度管理医療機器販売業の申請を行っており、2023年は1社が管理医療機器販売業・貸与業の申請を行っていた。

2. 検査精度調査（図4）

2024年に郵送検査会社9社に対し、陽性3検体、陰性2検体を郵送し、報告された検査結果を図4の左に示した。陽性3検体は9社ともすべて陽性、陰性2検体は9社ともすべて陰性で結果が一致していた。2022年には7社、2023年には8社に対し、同様の方法で得られた結果を2024年の結果とあわせて図4の右に示した。2022年、2023年とも調査した郵送検査会社すべてで陽性3検体は陽性、陰性2検体は陰性と結果が一致していた。

D. 考察

HIV 郵送検査数は2022年の郵送検査会社全体の年間検査数である149,637件と2024年の検査数132,324件を比較すると12%減少しており、新型コロナウイルス流行時の一時的な減少を除くと2023年をピークとして減少傾向が見られた。2022年と2024年の両方に返答があった8社のみを合計した検査数を比較しても10%減少しており、回答した会社の影響ではなく、全体的な郵送検査数の減少であることがわかった。エイズ発生動向調査（エイズ動向委員会提供）で報告された2024年第1四半期と2四半期の保健所等検査数は計51,696件であり、前年比4%増とほぼ横ばいであることから2024年の保健所等検査数は約10万件と推定されるが、まだ132,324件である郵送検査数のほうが多いことが

予想された。

また郵送検査数の内、2022年は36%、2023年は32%、2024年は41%が団体受付による検査と推定され、郵送検査の中で大きな割合を占めていることがわかった。団体受付の検査の推定数と個人が行う検査の推定数について、それぞれ2022年と2024年の検査数増減率を比較すると、団体検査が3.3%の増加とほぼ横ばいなのに対して個人検査が20%の減少と大きな差が見られ、郵送検査数全体の減少は個人検査数の減少によるものであることが考えられた。

2022年の郵送検査会社全体の年間陽性数である152例と2024年の陽性数103例を比較すると32%減少しており、2022年の郵送検査会社全体の判定保留数である47例と2021年の判定保留数30例を比較すると36%減少していた。

2022年の陽性数と判定保留数の合計である199例と2024年の合計数133例を比較すると33%減少しており、郵送検査数全体の減少率である12%と比較してより大きい減少傾向が見られた。この陽性数と判定保留数の減少が真の陽性者数の減少がどうかを確認するため、郵送検査の偽陽性率を調査することが重要である。

梅毒郵送検査数はHIVと同様に2023年をピークとして減少傾向が見られた。梅毒郵送検査数は2023年から2024年にかけて15%減少しており、陽性数は23%減少、陽性率は0.14%減少とすべて減少傾向であった。梅毒の感染症発生動向調査（国立感染症研究所提供）に基づく2024年の梅毒感染者報告数は14,663人と昨年比で2.8%減少しており、梅毒郵送検査の検査数および陽性数の減少は、梅毒感染者報告数の減少も影響していることが考えられた。梅毒郵送検査の団体受付の検査の推定数と個人が行う検査の推定数について、それぞれ2022年と2024年の検査数増減率を比較すると、団体検査が23%の増加なのに対して個人検査が13%の減少と大きな差が見られた。梅毒郵送検査数全体の減少は、HIV 郵送検査と同様に個人検査数の減

少によるものであることが考えられた。梅毒郵送検査の年間検査数、陽性数、団体検査率についてはさらに継続して調査が必要である。

HIV 検査を取り扱う郵送検査は、主にインターネットによって検査申込が行われ、受検費用は平均 4057-4102 円、検査日数は平均 2-3 日であった。検査検体は全ての会社で血液が用いられており、郵送されてきたキットに添付されているランセットで採血し、濾紙や採血管で保存する形式をとっていた。郵送検査会社で行われる検査は、返答があったすべての会社で、CLEIA 法、イムノクロマト法、PA 法、CLIA 法等、PMDA で認可された臨床検査キットで検査を行っていた。

検査結果の通知方法は郵送に対応している会社が多かったが、web 専用サイトや PC・携帯での e-mail で通知している会社が多く見られた。スクリーニング検査結果が陽性だった場合、ほぼすべての検査会社で医療機関での検査をすすめていた。2022 年から 2024 年に陽性となった 379 例の内、電話やメール相談で受検者を医療機関へ紹介した件数は 102 例、陽性者数の 27%であり、医療機関での受診が確認できた件数は 65 例、陽性者数の 17%であった（図 2）。郵送検査はほぼすべてが匿名検査であるため、受検者名の入った紹介状は発行できず、陽性通知が対面では行われない。そのため陽性となった受検者は、陽性結果の返却時に記載された医療機関へ自発的に受診しなければならない。その際に郵送検査会社へ受診を報告する義務はないため、結果的に受診を確認できた割合が低くなっている可能性がある。SNS 等を利用した個別対応の医療機関紹介等、郵送検査におけるすべての陽性者が医療機関へつながるシステムの構築が喫緊の課題である。

2022 年は 7 社、2023 年は 8 社、2024 年は 9 社の郵送検査会社に対し、陽性 3 例、陰性 2 例のパネル検体を用いて検査精度調査を行った結果、調査を受けたすべての会社で陽性、陰性検体とも

結果がすべて一致していた。今後も定期的に検査精度調査を行うことにより、郵送検査の検査精度を維持し向上する必要がある。

郵送検査は、受検者の都合の良い時間と場所で対面することなく検査を受けることができる利点がある一方、郵送や Web サイトを用いた検査の特性上、受検者への検査説明、検査相談、検査後フォローアップ等が対面で行われないため、HIV 検査に関する十分な情報が伝えにくいという欠点がある。また団体受付において検査結果が本人以外の検査依頼者に返されているという問題点もある。2018 年 1 月に改正された「後天性免疫不全症候群に関する特定感染症予防指針（エイズ予防指針）」指針では、郵送検査に関して「郵送検査の結果、更なる検査が必要とされた者を医療機関等への受診に確実につなげる方法等について検討する必要がある。」と記載されている。今後も今年度行ったような定期的な検査精度調査を行い、団体検査、受検者に対する検査相談、フォローアップ等の改善のため、2017 年に発行された「HIV 郵送検査のあり方について」等を活用し、各郵送検査会社の協力を得て、郵送検査をより安心して受けられ、信頼できる検査とする必要がある。

E. 結論

郵送検査会社全体の HIV 年間検査数は 2023 年をピークとして 2024 年は 132,324 件、昨年比で 14%減少していたが、まだ 2024 年保健所等検査の推定数である 10 万件を上回っていた。また HIV 郵送検査の内、41%が団体受付による検査であり、個人検査数の減少が全体の郵送検査数の減少に影響していると推定された。

郵送検査陽性数は 2024 年が 103 例であり、2022 年と比較すると 32%減少していた。また判定保留数は 2024 年が 30 例であり、2022 年と比較すると 36%減少していた。

HIV 検査の受検費用は平均 4057-4102 円、検査日数は平均 2-3 日であった。検査検体は全血を

濾紙や採血管で保存したものを用いており、PMDA で認可された臨床検査キットで検査を行っていた。検査結果は郵送での通知に加えて専用 web サイトや E-mail での通知が選択できる会社が多く、検査結果が陽性だった場合、ほぼすべての検査会社で病院での検査をすすめていた。

2022 年は 7 社、2023 年は 8 社、2024 年は 9 社の郵送検査会社に対し、陽性 3 例、陰性 2 例のパネル検体を用いて検査精度調査を行った結果、すべての会社で、陽性、陰性検体ともすべて結果が一致していた。

今後も定期的な検査精度調査を行い、団体検査、受検者に対する検査相談、フォローアップ等の改善のため、2017 年に発行された「HIV 郵送検査のあり方について」等を活用し、各郵送検査会社の協力を得て、郵送検査をより安心して受けられ、信頼できる検査とする必要がある。

F. 研究発表

1. 論文発表

- 1) 須藤弘二、加藤眞吾. HIV 郵送検査に関する実態調査と検査精度調査. 病原微生物検出情報、45、10、166-167. 2024.
- 2) 川畑拓也、阪野文也、浜みなみ、長島真美、河上麻美代、貞升健志、佐野貴子、加藤眞吾、須藤弘二、近藤真規子、今村顕史. 地方衛生研究所における HIV 確認検査に関するアンケート調査結果. 病原微生物検出情報、45、10、165-166、2024.
- 3) 高木律男、田邊嘉也、須藤弘二、山田瑛子、加藤眞吾. SARS-CoV-2 感染診断のための PCR 検体採取法および診断精度 ―口腔からの検体採取法の検討. 日本環境感染学会誌. 37(4)、139-142、2022.

2. 学会発表

- 1) 須藤弘二、佐野貴子、近藤真規子、今井光信、今村顕史、加藤眞吾. HIV 郵送検査に関する実態調査(2023). 第 38 回日本エイズ

学会学術集会・総会、2024 年、東京.

- 2) 佐野貴子、土屋菜歩、渡邊大地、須藤弘二、近藤真規子、星野慎二、井戸田一朗、清水茂徳、生島 嗣、岩橋恒太、今井光信、加藤眞吾、市川誠一、白阪琢磨、今村顕史. ウェブサイト「HIV 検査・相談マップ」のサイト利用状況および新規ウェブサイト「性感染症検査・相談マップ」の開設について. 第 38 回日本エイズ学会学術集会・総会、2024 年、東京.
- 3) 川畑拓也、阪野文哉、浜みなみ、長島真美、河上麻美代、貞升健志、佐野貴子、近藤真規子、須藤弘二、加藤眞吾、今村顕史. 地方衛生研究所における HIV 確認検査に関するアンケート調査結果. 第 38 回日本エイズ学会学術集会・総会、2024 年、東京.
- 4) 土屋菜歩、佐野貴子、城所敏英、川畑拓也、貞升健志、須藤弘二、加藤眞吾、大木幸子、生島嗣、今井光信、今村顕史. 保健所・検査所における HIV 検査・相談体制と実施状況および課題に関するアンケート調査. 第 38 回日本エイズ学会学術集会・総会、2024 年、東京.
- 5) 土屋菜歩、佐野貴子、城所敏英、川畑拓也、貞升健志、須藤弘二、加藤眞吾、大木幸子、生島嗣、今井光信、今村顕史. 保健所・検査所における梅毒検査実施状況および陽性率に関するアンケート調査. 第 38 回日本エイズ学会学術集会・総会、2024 年、東京.
- 6) 須藤弘二、佐野貴子、近藤真規子、今井光信、今村顕史、加藤眞吾. HIV 郵送検査に関する実態調査(2022). 第 37 回日本エイズ学会学術集会・総会、2023 年、京都市.
- 7) 佐野貴子、近藤真規子、須藤弘二、櫻木淳一、今井光信、加藤眞吾、今村顕史. 民間臨床検査センターにおける HIV 検査等の実施状況及び確認 IC 法検査試薬導入に関する調査. 第 37 回日本エイズ学会学術集会・総

会、2023 年、京都市。

- 8) 須藤弘二、佐野貴子、近藤真規子、今井光信、今村顕史、加藤眞吾。HIV 郵送検査に関する実態調査(2021)。第 36 回日本エイズ学会学術集会・総会、2022 年、浜松市。
- 9) 土屋菜歩、佐野貴子、城所敏英、根岸潤、堅多敦子、川畑拓也、貞升健志、須藤弘二、加藤眞吾、大木幸子、生島 嗣、今井光信、今村顕史。COVID-19 流行下での保健所・特設検査所における HIV 検査・相談実施状況と課題及び工夫。第 36 回日本エイズ学会学術集会・総会、2022 年、浜松市。
- 10) 佐野貴子、近藤真規子、須藤弘二、櫻木淳一、井戸田一朗、今井光信、加藤眞吾、

今村顕史。COVID-19 流行下における民間臨床検査センターでの HIV 検査等の実施状況に関する検査。第 36 回日本エイズ学会学術集会・総会、2022 年、浜松市。

- 11) 近藤真規子、佐野貴子、須藤弘二、井戸田一朗、土屋菜歩、貞升健志、今井光信、加藤眞吾、櫻木淳一、中澤よう子、今村顕史。新型コロナウイルス感染症流行禍の 2 年間(2020-2021 年)における HIV 検査体制の実態。第 36 回日本エイズ学会学術集会・総会、2022 年、浜松市。

G. 知的所有権の取得状況

なし

HIV 郵送検査に関するアンケート(2022)

厚生労働省科学研究費補助金エイズ対策研究事業

「HIV 検査体制の改善と効果的な受検勧奨のための研究」(研究代表者: 今村顕史)

このアンケートは、HIV 郵送検査の実態を調査させていただくために、インターネットで検索可能であった HIV 郵送検査を取り扱っている会社様宛にお送りさせていただいております。本アンケート調査の集計結果は、個々の会社名を記号化して使用いたします。(アンケートの集計結果は、会社名を記号化して、研究班の報告書や学会等で報告することがあります。) より良い HIV 検査体制の充実のために、ご協力をよろしくお願いいたします。

以下のアンケート項目にお答えください。誠に申し訳ありませんが、2月6日(月)までにご返信いただけます様、よろしくお願い申し上げます。

貴社名 _____ 部署名 _____
担当者名 _____ 様 e-mail _____
住所連絡先 変更 1. なし ・ 2. あり (ありの場合は以下に記入をお願いします)
貴社住所 _____
連絡先 Tel _____ FAX _____

以下の設問でお伺いした検査数と陽性数は、個別の会社の数として公表することではなく、全郵送検査会社の合計数としてのみご報告させていただきますので、ご協力をよろしくお願いいたします。

① 昨年(2022 年 1-12 月)の HIV スクリーニング検査数とその検査陽性数を教えてください。

1. HIV 検査数 _____ 件

団体での定期健診検査受付: 1. あり ・ 2. なし ・ 3. 不明
→ ありの場合: およそ _____ %
団体検査受付時の結果の返送方法 (複数回答可):
A. 個人にのみ返送 ・ B. 個人と依頼人両方に返送 ・ C. 依頼人にまとめて返送 ・
D. 依頼人に個人ごとの封書をまとめて返送 ・ E. その他 _____

2. HIV 検査陽性数 _____ 件

(検査結果として陽性以外に判定保留がある場合、その件数 _____ 件)

(確認検査を実施している場合は確認検査陽性数 _____ 件)

(電話やメールによる相談で、受検者を医療機関へ紹介した件数 _____ 件)

(受検者が医療機関へ受診したことが確認できた件数 _____ 件)

② 梅毒の検査を行っている場合は、昨年(2022 年 1-12 月)の梅毒スクリーニング検査数とその検査陽性数を教えてください。

1. 梅毒検査数 _____ 件 (団体検査 およそ _____ %)

2. 梅毒検査陽性数 _____ 件

③ 新型コロナウイルス郵送検査を行っていますか。

1. 行っている (およそ _____ 件) 2. 行っていない

④ HIV 郵送検査の精度向上のため、昨年に継続して外部精度調査を行う予定です (検体数は 5 件です)。ご参加いただける場合は、後程詳細な方法と日程についてご連絡いたします。

1. 参加を希望する。 2. 参加を希望しない。

⑤ HIV 郵送検査に関連して今後の課題・展望等ございましたら、御意見をお聞かせください。

(必要があれば適宜別紙を追加し御記載ください)

新規にアンケートをお答えいただく方は以下の設問にご記入をお願いします。昨年のアンケートで
お答えをいただいております、昨年と回答が変わらない設問については変更無しに○を、回答が変わった設
問についてはご記入をお願いします。

⑥ HIV 郵送検査の開始年月を教えてください。

_____ 年 _____ 月 より開始 _____ ・ 変更なし

⑦ HIV 検査の申し込み方法を教えてください。(複数回答可)

1. インターネット ・ 2. 電話 ・ 3. FAX ・ 4. 郵便 ・ 5. 定期健診 ・ 6. 店頭(店名 _____)
7. その他(_____) ・ 変更なし

⑧ HIV 郵送検査の費用を教えてください。

_____ 円(税込 _____ 円) _____ ・ 変更なし

⑨ HIV 郵送検査に用いる検体とその保存方法を教えてください。また検体が血液の場合、採血部位
と使用器具について、併せて教えてください。

<検査検体> 1. 血液 ・ 2. 唾液 ・ 3. 尿 ・ 4. その他(_____) ・ 変更なし

<保存方法> 1. 専用容器(抗凝固剤・血清分離剤) ・ 2. ろ紙 ・ 3. その他(_____)

→検体が血液の場合

<採血部位> 1. 指先穿刺 ・ 2. 耳朶採血 ・ 3. その他(_____)

<使用器具> 1. ランセット ・ 2. その他(_____)

⑩ 受検者から貴社への検体輸送方法について教えてください。

<検体輸送方法> 1. 郵便(宅急便) ・ 2. その他(_____) ・ 変更なし

<設定温度> 1. 室温 ・ 2. 冷蔵 _____℃ ・ 3. 凍結 _____℃

⑪ HIV スクリーニング検査の方法と使用キット名を教えてください。

1. CLEIA 法 ・ 2. イムノクロマト法 ・ 3. PA 法 ・ 4. その他(_____) ・ 変更なし
キット名 _____

⑫ HIV スクリーニング検査をどのように実施していますか。

1. 自社内ラボ ・ 2. 他の検査機関(機関名 _____) ・ 変更なし

⑬ HIV スクリーニング検査結果の通知方法(複数回答可)と通知までの日数を教えてください。

1. e-mail(携帯・PC) ・ 2. 郵送 ・ 3. その他(_____) ・ 変更なし
検体受領後 _____ 日で結果を通知

⑭ HIV スクリーニング検査陽性の場合の対応方法を教えてください(複数回答可)。

1. 保健所で確認検査を受けるように勧める。 _____ ・ 変更なし
2. 病院で確認検査を受けるように勧める。
3. 提携している医療機関に行くように勧める。(提携医療機関 _____)
4. 自社で設けた専用の相談連絡先を知らせる。(電話 _____ ・ メール _____)
5. HIV に関する相談窓口を紹介する。(エイズ予防財団・NPO・その他 _____)
6. 追加検査、確認検査を実施している。(方法 _____)(キット名 _____)
→受検者への結果通知に反映させている。(はい ・ いいえ)
7. スクリーニング検査の結果のみ知らせ、対応は個人の判断に任せる。
8. その他(_____)

⑮ 昨年より前の HIV 検査取り扱い数と HIV スクリーニング検査陽性数を教えてください。

_____ ・ 変更なし

	～2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
年間検査数																						
検査陽性数																						

⑯ 他に取り扱っている STD 検査のその種類を教えてください(複数回答可)。

1. B型肝炎 ・ 2. C型肝炎 ・ 3. 梅毒 ・ 4. クラミジア ・ 5. 淋病 _____ ・ 変更なし
6. その他(_____)

⑰ 郵送検査を行うにあたって、国、都道府県等の届出、申請等、どのような手続きを行いましたか。

_____ ・ 変更なし

御協力ありがとうございました。

資料 2

HIV 郵送検査に関するアンケート(2023)

厚生労働省科学研究費補助金エイズ対策研究事業

「HIV 検査体制の改善と効果的な受検勧奨のための研究」(研究代表者: 今村顕史)

このアンケートは、HIV 郵送検査の実態を調査させていただくために、インターネットで検索可能であった HIV 郵送検査を取り扱っている会社様宛にお送りさせていただいております。本アンケート調査の集計結果は、個々の会社名を記号化して使用いたします。(アンケートの集計結果は、会社名を記号化して、研究班の報告書や学会等で報告することがあります。) より良い HIV 検査体制の充実のために、ご協力をよろしくお願いいたします。

以下のアンケート項目にお答えください。誠に申し訳ありませんが、2月13日(火)までにご返信いただけます様、よろしくお願いいたします。

貴社名 _____ 部署名 _____
担当者名 _____ 様 e-mail _____
住所連絡先 変更 1. なし ・ 2. あり (ありの場合は以下に記入をお願いします)
貴社住所 _____
連絡先 Tel _____ FAX _____

以下の設問でお伺いした検査数と陽性数は、個別の会社の数として公表することはなく、全郵送検査会社の合計数としてのみご報告させていただきますので、ご協力をよろしくお願いいたします。

① 昨年(2023 年 1-12 月)の HIV スクリーニング検査数とその検査陽性数を教えてください。

1. HIV 検査数 _____ 件

団体での定期健診検査受付: 1. あり ・ 2. なし ・ 3. 不明
→ ありの場合: およそ _____ %
団体検査受付時の結果の返送方法 (複数回答可):
A. 個人にのみ返送 ・ B. 個人と依頼人両方に返送 ・ C. 依頼人にまとめて返送 ・
D. 依頼人に個人ごとの封書をまとめて返送 ・ E. その他 _____

2. HIV 検査陽性数 _____ 件

(検査結果として陽性以外に判定保留がある場合、その件数 _____ 件)
(確認検査を実施している場合は確認検査陽性数 _____ 件)
(電話やメールによる相談で、受検者を医療機関へ紹介した件数 _____ 件)
(受検者が医療機関へ受診したことが確認できた件数 _____ 件)

② 梅毒の検査を行っている場合は、昨年(2023 年 1-12 月)の梅毒スクリーニング検査数とその検査陽性数を教えてください。

1. 梅毒検査数 _____ 件 (団体検査 およそ _____ %)

2. 梅毒検査陽性数 _____ 件

③ HIV 郵送検査の精度向上のため、昨年に継続して検査精度調査を行う予定です (検体数は 5 件です)。ご参加いただける場合は、後程詳細な方法と日程についてご連絡いたします。

1. 参加を希望する。 2. 参加を希望しない。

④ HIV 郵送検査検体を用いた確認検査の検討のため、貴社で陽性となった検体の残渣 (パンチ後のろ紙等) をお送りいただき、確認 IC 法で検査を行いたいと考えております。ご検討していただける場合は、後程詳細な方法と日程についてご連絡いたします (ご検討後にお断りいただいてもかまいません)。

1. 参加を検討する。 2. 参加しない。

⑤ HIV 郵送検査に関連して今後の課題・展望等ございましたら、御意見をお聞かせください。
(必要があれば適宜別紙を追加し御記載ください)

新規にアンケートをお答えいただく方は以下の設問にご記入をお願いします。昨年のアンケートで
お答えをいただいております、昨年と回答が変わらない設問については変更無しに○を、回答が変わった設
問についてはご記入をお願いします。

⑥ HIV 郵送検査の開始年月を教えてください。

____年 ____月 ____日より開始 _____ 変更なし

⑦ HIV 検査の申し込み方法を教えてください。(複数回答可)

1. インターネット ・ 2. 電話 ・ 3. FAX ・ 4. 郵便 ・ 5. 定期健診 ・ 6. 店頭(店名 _____)
7. その他(_____) _____ 変更なし

⑧ HIV 郵送検査の費用を教えてください。

____円(税込 ____円) _____ 変更なし

⑨ HIV 郵送検査に用いる検体とその保存方法を教えてください。また検体が血液の場合、採血部位
と使用器具について、併せて教えてください。

<検査検体> 1. 血液 ・ 2. 唾液 ・ 3. 尿 ・ 4. その他(_____) _____ 変更なし

<保存方法> 1. 専用容器(抗凝固剤・血清分離剤) ・ 2. ろ紙 ・ 3. その他(_____)

→検体が血液の場合

<採血部位> 1. 指先穿刺 ・ 2. 耳朶採血 ・ 3. その他(_____)

<使用器具> 1. ランセット ・ 2. その他(_____)

⑩ 受検者から貴社への検体輸送方法について教えてください。

<検体輸送方法> 1. 郵便(宅急便) ・ 2. その他(_____) _____ 変更なし

<設定温度> 1. 室温 ・ 2. 冷蔵 ____℃ ・ 3. 凍結 ____℃

⑪ HIV スクリーニング検査の方法と使用キット名を教えてください。

1. CLEIA 法 ・ 2. イムノクロマト法 ・ 3. PA 法 ・ 4. その他(_____) _____ 変更なし
キット名 _____

⑫ HIV スクリーニング検査をどのように実施していますか。

1. 自社内ラボ ・ 2. 他の検査機関(機関名 _____) _____ 変更なし

⑬ HIV スクリーニング検査結果の通知方法(複数回答可)と通知までの日数を教えてください。

1. e-mail(携帯・PC) ・ 2. 郵送 ・ 3. その他(_____) _____ 変更なし
検体受領後 ____ 日で結果を通知

⑭ HIV スクリーニング検査陽性の場合の対応方法を教えてください(複数回答可)。

1. 保健所で確認検査を受けるように勧める。 _____ 変更なし
2. 病院で確認検査を受けるように勧める。
3. 提携している医療機関に行くように勧める。(提携医療機関 _____)
4. 自社で設けた専用の相談連絡先を知らせる。(電話 _____ ・ メール _____)
5. HIV に関する相談窓口を紹介する。(エイズ予防財団・NPO・その他 _____)
6. 追加検査、確認検査を実施している。(方法 _____)(キット名 _____)
→受検者への結果通知に反映させている。(はい ・ いいえ)
7. スクリーニング検査の結果のみ知らせ、対応は個人の判断に任せる。
8. その他(_____)

⑮ 昨年より前の HIV 検査取り扱い数と HIV スクリーニング検査陽性数を教えてください。

_____ 変更なし

	～2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
年間検査数																							
検査陽性数																							

⑯ 他に取扱っている STD 検査のその種類を教えてください(複数回答可)。

1. B 型肝炎 ・ 2. C 型肝炎 ・ 3. 梅毒 ・ 4. クラミジア ・ 5. 淋病 _____ 変更なし
6. その他(_____)

⑰ 郵送検査を行うにあたって、国、都道府県等の届出、申請等、どのような手続きを行いましたか。

_____ 変更なし

御協力ありがとうございました。

資料 3

HIV 郵送検査に関するアンケート(2024)

厚生労働省科学研究費補助金エイズ対策研究事業

「HIV 検査体制の改善と効果的な受検勧奨のための研究」(研究代表者: 今村顕史)

このアンケートは、HIV 郵送検査の実態を調査させていただくために、インターネットで検索可能であった HIV 郵送検査を取り扱っている会社様宛にお送りさせていただいております。本アンケート調査の集計結果は、個々の会社名を記号化して使用いたします。(アンケートの集計結果は、会社名を記号化して、研究班の報告書や学会等で報告することがあります。) より良い HIV 検査体制の充実のために、ご協力をよろしくお願いいたします。

以下のアンケート項目にお答えください。誠に申し訳ありませんが、2月14日(金)までにご返信いただけます様、よろしくお願いいたします。

貴社名 _____ 部署名 _____
担当者名 _____ 様 e-mail _____
住所連絡先 変更 1. なし ・ 2. あり (ありの場合は以下に記入をお願いします)
貴社住所 _____
連絡先 Tel _____ FAX _____

以下の設問でお伺いした検査数と陽性数は、個別の会社の数として公表することではなく、全郵送検査会社の合計数としてのみご報告させていただきますので、ご協力をよろしくお願いいたします。

① 昨年(2024 年 1-12 月)の HIV スクリーニング検査数とその検査陽性数を教えてください。

1. HIV 検査数 _____ 件

団体での定期健診検査受付: 1. あり ・ 2. なし ・ 3. 不明

→ ありの場合: およそ _____ %

団体検査受付時の結果の返送方法 (複数回答可):

A. 個人にのみ返送 ・ B. 個人と依頼人両方に返送 ・ C. 依頼人にまとめて返送 ・
D. 依頼人に個人ごとの封書をまとめて返送 ・ E. その他 _____

2. HIV 検査陽性数 _____ 件

(検査結果として陽性以外に判定保留がある場合、その件数 _____ 件)

(確認検査を実施している場合は確認検査陽性数 _____ 件)

(電話やメールによる相談で、受検者を医療機関へ紹介した件数 _____ 件)

(受検者が医療機関へ受診したことが確認できた件数 _____ 件)

② 梅毒の検査を行っている場合は、昨年(2024 年 1-12 月)の梅毒スクリーニング検査数とその検査陽性数を教えてください。

1. 梅毒検査数 _____ 件 (団体検査 およそ _____ %)

2. 梅毒検査陽性数 _____ 件

③ HIV 郵送検査の精度向上のため、昨年に継続して検査精度調査を行う予定です (検体数は 5 件です)。ご参加いただける場合は、後程詳細な方法と日程についてご連絡いたします。

1. 参加を希望する。 2. 参加を希望しない。

④ HIV 郵送検査で陽性となった受検者を適切な診断・治療につなげるため、どのようにすればよいかを検討するオンライン会議を開催する予定です。ご参加を検討いただける場合は、後程詳細な方法と日程についてご連絡いたします。

1. 参加を検討する。 2. 参加しない。

⑤ HIV 郵送検査に関連して今後の課題・展望等ございましたら、御意見をお聞かせください。

(必要があれば適宜別紙を追加し御記載ください)

新規にアンケートをお答えいただく方は以下の設問にご記入をお願いします。昨年のアンケートで
お答えをいただいております、昨年と回答が変わらない設問については変更無しに○を、回答が変わった設
問についてはご記入をお願いします。

- ⑥ HIV 郵送検査の開始年月を教えてください。
 _____ 年 _____ 月 より開始 _____ ・ 変更なし
- ⑦ HIV 検査の申し込み方法を教えてください。(複数回答可)
 1. インターネット ・ 2. 電話 ・ 3. FAX ・ 4. 郵便 ・ 5. 定期健診 ・ 6. 店頭(店名 _____)
 7. その他 (_____) ・ 変更なし
- ⑧ HIV 郵送検査の費用を教えてください。
 _____ 円(税込 _____ 円) _____ ・ 変更なし
- ⑨ HIV 郵送検査に用いる検体とその保存方法を教えてください。また検体が血液の場合、採血部位
 と使用器具について、併せて教えてください。
 <検査検体> 1. 血液 ・ 2. 唾液 ・ 3. 尿 ・ 4. その他 (_____) ・ 変更なし
 <保存方法> 1. 専用容器(抗凝固剤・血清分離剤) ・ 2. ろ紙 ・ 3. その他 (_____)
 →検体が血液の場合
 <採血部位> 1. 指先穿刺 ・ 2. 耳朶採血 ・ 3. その他 (_____)
 <使用器具> 1. ランセット ・ 2. その他 (_____)
- ⑩ 受検者から貴社への検体輸送方法について教えてください。
 <検体輸送方法> 1. 郵便(宅急便) ・ 2. その他 (_____) ・ 変更なし
 <設定温度> 1. 室温 ・ 2. 冷蔵 _____℃ ・ 3. 凍結 _____℃
- ⑪ HIV スクリーニング検査の方法と使用キット名を教えてください。
 1. CLEIA 法 ・ 2. イムノクロマト法 ・ 3. PA 法 ・ 4. その他 (_____) ・ 変更なし
 キット名 _____
- ⑫ HIV スクリーニング検査をどのように実施していますか。
 1. 自社内ラボ ・ 2. 他の検査機関 (機関名 _____) ・ 変更なし
- ⑬ HIV スクリーニング検査結果の通知方法(複数回答可)と通知までの日数を教えてください。
 1. e-mail (携帯 ・ PC) ・ 2. 郵送 ・ 3. その他 (_____) ・ 変更なし
 検体受領後 _____ 日で結果を通知
- ⑭ HIV スクリーニング検査陽性の場合の対応方法を教えてください(複数回答可)。
 1. 保健所で確認検査を受けるように勧める。 _____ ・ 変更なし
 2. 病院で確認検査を受けるように勧める。
 3. 提携している医療機関に行くように勧める。(提携医療機関 _____)
 4. 自社で設けた専用の相談連絡先を知らせる。(電話 ・ メール)
 5. HIV に関する相談窓口を紹介する。(エイズ予防財団・NPO・その他 _____)
 6. 追加検査、確認検査を実施している。(方法 _____)(キット名 _____)
 →受検者への結果通知に反映させている。(はい ・ いいえ)
 7. スクリーニング検査の結果のみ知らせ、対応は個人の判断に任せる。
 8. その他 (_____)
- ⑮ 昨年より前の HIV 検査取り扱い数と HIV スクリーニング検査陽性数を教えてください。
 _____ ・ 変更なし

	～2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023
年間検査数																								
検査陽性数																								

- ⑯ 他に取扱っている STD 検査のその種類を教えてください(複数回答可)。
 1. B型肝炎 ・ 2. C型肝炎 ・ 3. 梅毒 ・ 4. クラミジア ・ 5. 淋病 _____ ・ 変更なし
 6. その他 (_____)
- ⑰ 郵送検査を行うにあたって、国、都道府県等の届出、申請等、どのような手続きを行いましたか。
 _____ ・ 変更なし

御協力ありがとうございました。

図1

HIV郵送検査の動向

— HIV郵送検査数と陽性数の推移（2001-2024）—

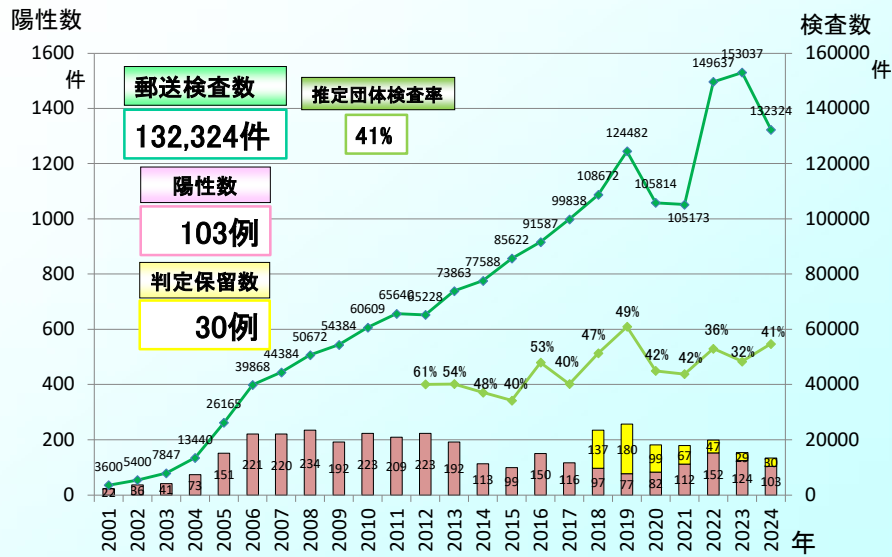


図2

検査後フォローアップと医療機関への繋がり 及び 団体検査における結果返送方法

郵送検査	スクリーニング検査陽性数	2022年	2023年	2024年	合計
		152件	124件	103件	379件
→ 電話やメールによる相談で 受検者を医療機関へ紹介した件数					
		44例	41例	17例	102例 (27%)
→ 医療機関での受診が確認できた件数					
		30例	20例	15例	65例 (17%)

団体検査あり	2022年	2023年	2024年
	5社	5社	4社
返送方法(複数回答)			
依頼者に受検者ごとの封書をまとめて返送	3社	3社	3社
受検者と依頼者の両方に返送	2社	4社	3社
受検者個人にのみ返送	2社	3社	1社
依頼者にまとめて返送	1社	1社	0社

→ 団体検査での結果返しは受検者だけではなく依頼者にも結果を返していた。

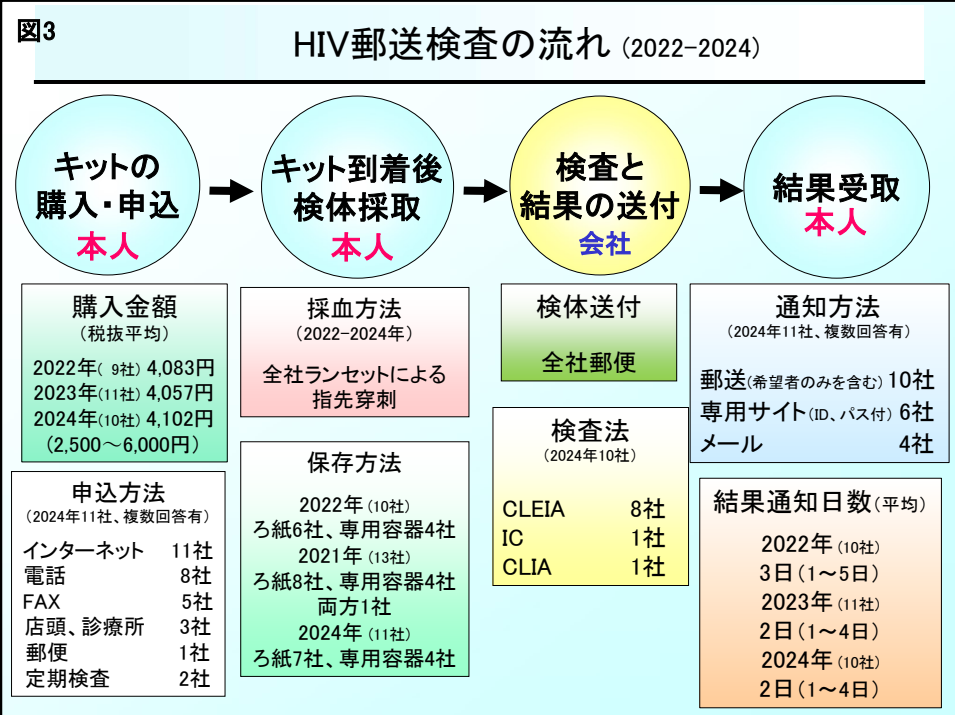


図4 検査精度調査結果 (2022-2024)

使用検体: 陽性3検体、陰性2検体、合計5検体
対象: 郵送検査会社 7-9施設

2024年結果						2022-2024年結果			
会社名	検体番号					会社名	結果一致数/検体数		
	陽性検体			陰性検体			2022年	2023年	2024年
	1	2	3	4	5				
A社	+	+	+	-	-	A社	5/5	5/5	5/5
B社	+	+	+	-	-	B社	5/5	5/5	5/5
C社	+	+	+	-	-	C社	5/5	5/5	5/5
D社	+	+	+	-	-	D社	5/5	5/5	5/5
E社	+	+	+	-	-	E社	5/5	5/5	5/5
F社	+	+	+	-	-	F社	5/5	5/5	5/5
G社	+	+	+	-	-	G社	5/5	5/5	5/5
H社	+	+	+	-	-	H社		5/5	5/5
I社	+	+	+	-	-	I社			5/5
	x400	x800	x2000	+: 陽性 -: 陰性					
	PA 抗体価								

2022から2024年の郵送検査会社すべてで陽性、陰性検体とも結果が一致していた。